

アントニオ・ピリコーネ（1977-）は、イタリアの若い世代を代表する音楽家であり、ピアニストまたは古楽器奏者として国際的な脚光を浴びている。彼の楽曲解釈、多才さ、演奏様式のセンスは、ソリスト、そして室内楽奏者として彼の地位を確固たるものにしていく。

イタリア・シチリア島カタニーヤでピアノを学んだ後、デン・ハーグ王立音楽院（オランダ）にて演奏実践、及び古楽器の分野においてさらに研鑽を積む。ハープシコードをジャック・オッホ氏、パトリック・アイルトン各氏に、フォルテピアノをスタンリー・ホッフランド氏、バルト・ファン・オールト氏に師事。またドイツ、ケルンにてアンドレアス・スタイアー氏にも師事している。

ヨーロッパ及び日本各地の主要音楽ホールや著名な国際音楽祭への出演により彼の功績は広く認められている。主なものとしては、イタリア・ラヴェンナのアリゲーリ劇場、ブラハの春国際音楽祭、ミュンヘン・プリンスレジデント劇場、リヴァプール・フィルハーモニックホール、フレーデブルグ・ユトレヒト、ケルクラールデ世界音楽会議、アムステルダム・ミュージックヘボウ、ラ・ロック・ダンテロン国際ピアノ・フェスティバル、東京芸術劇場、東京オペラシティ、ラ・フォール・ジュルネ・ビルバオ、シテ・ドゥ・ラ・ムジーク・パリなどが挙げられる。またアンサンブル・コンチェルト、ミュンヘン・シンフォニーオーケストラ、アールガウ・シンフォニーオーケストラ、チェコ室内楽団、王室リヴァプール・フィルハーモニック・オーケストラ、仙台フィルハーモニー、東京佼成ウィンドオーケストラ、コンチェルト・ケルンなど、国際的に知られている室内楽団やオーケストラとの共演も数多い。クラウディーネ・アンセルメ、フーリオ・ザナシ、トン・コープマン、ロバート・ジニ、パオロ・ダ・コル、マルティン・ロスコー、ステイーヴ・ライヒ、サー・マルコム・アーノルド、アンドレアス・スタイアーなどの世界的音楽家と共演し好評を博す。イタリアとチェコのラジオ、テレビ局にて演奏を収録し、これまでにバイエルン放送、ラジオ・フランス、イタリア・Tre Suite、BBCラジオ3、ヴァチカン・ラジオ、イギリス・Classic FM、オランダ・Radio4にて、彼の演奏が取り上げられている。ソロCDはJ. S. バッハの「イギリス組曲」(Classico-1998/99)、そしてピアノでは世界初録音となるゲオルグ・ベンダの「チェンバロの為の6つのソナタ (1757)」(Classico-2003)がある。

2009年アムステルダムで行われた最も権威ある古楽アンサンブル・コンクール「Van Wassenaer 国際古楽コンクール」に「テンポ・ルバート・フォルテピアノ・デュエット」（日本人フォルテピアニスト丹野めぐみとのアンサンブル）として出場し優勝を果たす。また2011年3月にはイギリス・ケントにて行われる「クレメンティ・アワード」にて、歴史的ピアノのオリジナル作品研究を対象とした発表を行う予定である。

現在オランダを拠点とし、コンサート活動やトラパニ（イタリア・シチリア島）国立音楽院ピアノ科講師として後進の指導に当たる傍ら、鍵盤楽器の発展について独自の研究を行っている。あまり演奏される機会が少ない作品において、聞き手の正しい認識を促そうと、常に斬新で趣向に富んだプログラムを提示し続けている。歴史的演奏実践の美学は、彼にとって常にインスピレーションの源ではあるが、その傍ら現代音楽に対する強い責任感を持ち続けていることから、彼はすべての時代の音楽に幅広く精通する真の音楽家である。(2010)